

Let's WKB

若葉祭大成功

令和7年10月25日(土)今年度の「若葉祭」を開催しました。

今年度は「みんなにとどけ みんなでハッピー ～未来までつづく 虹の架け橋～」のスローガンの下、これまでの学習の成果を、舞台発表、作品展示、販売学習などで披露しました。

これら発表や作品づくりができたのも、「地域の皆様の協力があったこそ！」ということを実感する機会でもありました。

今回のコミスク通信では、「若葉祭」で皆様に御協力いただいたところを紹介します。



小学部舞台発表



中学部舞台発表

「へんしんトンネル」の基になった段ボールは、ダンボリアン主催の三上様から提供いただきました。

三上様を御紹介くださったのは山本コミスク委員です。

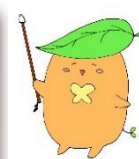
トンネルは23日からのダンボリアンに出展します。ぜひ、お近くで御覧ください。



全校合唱



高等部舞台発表



高等部販売学習

生徒の発表にあったように、今回発表するに当たって御協力いただきましたのは、青森放送様です。青森放送様との間をつないでくださったのが、坂本コミスク委員長です。

今年もたくさんの野菜が採れました。この野菜を作る畑を耕してくださったのが、川村コミスク委員。そして春、あんなに大量にあった雪を除雪してくださったのが古川コミスク委員率いる「夢の里」の利用者のみなさんです。

地域の皆様の御協力により、これまで以上に充実した舞台発表、作品展示、販売学習になりました。皆様どうもありがとうございました。引き続き、本校教育に御理解御協力のほどお願い申し上げます。

第3回学校運営協議会から

10月6日(月)今年度3回目の学校運営協議会を行いました。今回は「本校を分析してみました」と「地域文化祭の準備をしよう」の2本立てのテーマで井戸端会議を行いました。

【本校を分析してみました】

これまでの井戸端会議で挙げたことをまとめ、より一層学校にとって、地域にとって有効な活動について考えました。

クロスSWOT分析

		内部環境	
外部環境	内部環境	強み 少人数 児童生徒の優しさ、思いやり 児童生徒の個性 教師との良好な関係性 ICT機器を活用した授業 わかりやすい授業	弱み 少人数 全員が揃うことがない 経験が乏しい 教室が不足
		機会 地域の理解、協力者の存在 地域資源の豊富さ 社会人になったOB、OGの存在	弱み×機会 ○地域の力を借りた授業づくり ・対話的な学び：学生団体レスタ ・交流学习、教員研修：造道小、造道中 ○本校に不足した環境の充足 ・グラウンド（造道小） ・触れる動物園（県営）
	外部環境	脅威 ・知名度が低い 世の中には意外と知られていない ・津波浸水区域にある	弱み×脅威 ○児童生徒の得意（個性）を生かした広報（アピール） ・写真、絵画、書などの展示 ・SNSを活用した本校紹介 ○ICT機器を使ったわかりやすい授業 ・オンライン授業、オンデマンド教材等を活用した授業紹介（センター的機能） 強み×脅威



◎委員の皆さんからの御意見

- ・3年前の分析と比較して、より具体的且つ明確化された。
- ・少人数であることは一見弱みに見えるが、機動力があるという強みでもある。このことと外部環境の機会をうまく組み合わせたい。
- ・地域には「こんな学校があるなら、何かできることをしたい!」と思ってくださる方はいる。学校からの発信や仕掛けがあれば参加してくださるはず!
- ・社会で活躍する先輩(卒業生)が、在校生の支えになる可能性もある。

【地域文化祭の準備をしよう】

前出のSWOT分析から外部環境の「脅威」である「知名度が低い」と、本校の強みである「児童生徒の個性」を組み合わせる策（赤枠）の一つとして考えた「地域文化祭（作品展）」について井戸端会議をしました。

◎委員の皆さんからの御意見

- ・一つの案として集客力のある場所、例えば、アウガやラビナ、駅自由通路が考えられる。
- ・既存の発想にとらわれず、1カ所に1ないし2作品展示し分散型もある。
- ・分散型だとすると、スタンプラリーをしてゴールを学校にすると、知名度上昇にもつながる。
- ・児童生徒が展示依頼に行くことで、本校を正しく理解していただくことにつながる。



まさに「井戸端会議」。時に話題が蛇行することもあるのですが、多方面から「地域文化祭」に関する話を深めることができました。あとは「チャレンジ」あるのみ。